

【発表題目】

コンパラブル・コーパスを用いた英作文と日本語作文の使用語彙に関する対照研究

【要旨】

第二言語習得研究において、学習者の第一言語と第二言語の構造的差異を調べる対照分析は古くからあった。また、最近では、学習者コーパスを用いて、母語話者による言語使用と非母語話者による言語使用はどのように異なるのか、つまり、非母語話者が有意に過剰使用あるいは過少使用しがちな目標言語の言語的特徴は何か、を調査する研究も盛んである。さらに、コーパス言語学の分野では、二つ以上の言語の対訳データを集めたパラレル・コーパスの構築や分析も存在する。しかし、このような状況にありながら、ある言語の (1) 母語話者の言語データ, (2) 非母語話者の言語データ, (3) 非母語話者の第一言語データを多元的に比較した計量的研究は殆ど存在しない。

本発表の目的は、(1) 英語母語話者による英作文データ, (2) 日本人学習者による英作文データ, (3) 日本語母語話者による日本語作文データを多元的に比較し、日本人学習者の英語習得における母語（日本語）の影響に光を当てることである。分析にあたっては、同一のサンプリング・フレーム（同一の年齢、同一の学習環境、同一の作文テーマ、同一の作文環境など）で構築されたコンパラブル・コーパスを用いる。

分析の手順には、二つの段階がある。第一の段階では、英語母語話者による英作文データと日本人学習者による英作文データに生起する全ての語彙の頻度を統計的に比較し、日本人英語学習者が有意に過剰使用している語彙と過少使用している語彙を抽出する。そして、第二の段階では、前の段階で二群の頻度間に統計的有意差が見られた語彙の使用（日本人英語学習者に特徴的な語彙使用）に関して、日本人による英作文データと日本語作文データを量的・質的に比較する。

その結果、日本人学習者の英作文では、日本語には存在しない冠詞、関係詞（後置修飾）、前置詞などが過少使用され、日本語作文においても高頻度であった人称代名詞や接続詞などが過剰使用されていた。また、英語母語話者と日本人学習者は、自らの母語使用においては様々な緩衝表現を用いていたが、日本人学習者の英作文（非母語による作文）では、緩衝表現は極めて少なかった。これは、母語による影響というよりは、英語習熟度の問題であると思われる。その他、いくつかの点でモダリティに関する差異が見られた。

【主要参考文献】

Dulay, H., Burt, M., & Krashen, S. (1982). *Language two*. New York: Oxford University Press.

Granger, S. (Ed.). (1998). *Learner English on computer*. London: Longman.

石川慎一郎 (2008). 『英語コーパスと言語教育—データとしてのテキスト』 東京: 大修館書店.

Tono, Y. (2002). *The role of learner corpora in SLA research and foreign language teaching: The multiple comparison approach*. Unpublished Ph.D dissertation. Lancaster: Lancaster University.